



CIOの現状に関する調査

AI主導のビジネス戦略を策定するCIO

ITリーダーは、AI主導の変革によって形作られる時代においても引き続き、
ビジネス戦略を定義する中心的な役割を果たします。

コロナ禍を挟んで数年にわたった IT のモダナイゼーションへの取り組みを経て、CIO の責務は今、戦略的なビジネス変革への取り組みへと移行しようとしています。その中で目指すのは、AI に関する初期の熱狂と実験を、測定可能な成果をもたらす企業イニシアチブへと転換することです。

デジタルイノベーションの取り組みを継続的に推進している CIO は、経営幹部や事業部門の最高責任者から、中核的なビジネスリーダーとして広く認められています。CIO は現在も事業部門と技術部門の両方を股にかけ、サイバーセキュリティやビジネスプロセスのモダナイゼーションなど、IT の重要な機能的責任を負うと同時に、AI の戦略的導入の成功に必要な文化的変革の推進などの新しい役割も担っています。

最新の「CIO の現状に関する調査」では、回答者の 4 分の 3 が CIO が AI アプリケーションに関して事業部門と緊密に連携していると回答しました。また、71% は IT 部門が AI 導入の取り組みを推進し、事業部門はそれに応じて戦略を調整していると回答しました。IT リーダーの 4

分の 3 が今後 1 年間で AI と機械学習への関与を強める予定であると回答しましたが、それは当然のことです。906 人の IT リーダーと 250 人の事業担当者を対象に実施された今年の調査で、CEO にとっての 2025 年における IT の最優先事項として、回答者の 26% が AI 製品と AI プロジェクトの調査と導入を挙げました。

昨年調査では、回答者の過半数が自らの役割を変革的と分類したのに対し、今年の調査では戦略的と分類した IT リーダーが 2024 年の 35% から 6 ポイント上昇して 41% に達し、特に金融サービス (50%) とハイテク (47%) 業界では高い割合となりました。今後 3 ~ 5 年の展望については、今年の調査回答者の過半数 (52%) が引き続き戦略的役割を担うと予想しました。変

77%

のCIOは、教育においてCEOや取締役会と強力なパートナーシップを築いていると回答

革的役割を予想した人は32%で、従来型の機能的なIT業務が中心になると予想した人は16%にとどまりました。

戦略的な権限を得たCIOの役割は、ますます拡大しています。IT部門の回答者の4分の3と、事業部門の回答者の69%が、経済的要因と企業の可視性向上が相まって、CIOの地位が高まり続けていると答えました。また、複数の役職と責任を担うCIOも増えており、CIOが兼務する役職数は平均1.8に達しています。大部分(77%)のCIOが、教育においてCEOや取締役会と強力なパートナーシップを築いていると回答しました。

AIの重要性が増すとともに、CIOには今後もデジタル化とイノベーションを中心とした役割が求められ、この2つをCIOに期待すると回答した人の割合はIT部門で82%、事業部門で76%にのびりました。今年の調査では、参加者の82%が事業部門の最高責任者よりもCIOがデジタルトランスフォーメーションの取り組みを主導していると回答しました。そのように回答した

割合は、医療(94%)、従業員数1,000～5,000人の企業(87%)、北米およびAPAC地域(ともに85%)で特に高くなりました。

CIOの3分の1以上(34%)が、デジタルトランスフォーメーションの推進において他の経営幹部の関与が限定的であると回答しましたが、その割合はAPACでは若干低く、28%でした。およそ4分の1(26%)の企業で、デジタルトランスフォーメーションに関するすべての決定と取り組みに対する責任をCIOが単独で負っており、その割合は金融サービス業界(39%)と従業員100人未満の企業(30%)で特に高くなっています。一方、29%の企業は、デジタルトランスフォーメーションに関する責任がすべてのリーダーに分散されていると回答しました。

変わることもあれば、変わらないこともあります。CIOは依然として男性が圧倒的に多く、ITリーダーの74%を男性が占め、女性の割合はわずか24%となっています。例外は金融サービス業界と医療業界で、女性CIOの割合はそれぞれ46%と41%でした。これまでと同様に、CIOを変革推進者と位置付ける人の割合が高くなっています(2024年は85%、今年は81%)。これは、CIOがビジネスとテクノロジーの両方に関する取り組みを推進しているためです。それに関連して、今年の回答者の4分の3以上(76%)が、ビジネスイノベーションとオペレーショナルエクセレンスの最適なバランスの実現

を継続的な課題として挙げました。これも、以前の調査と比較して大きな変化がない分野です。

テクノロジー投資とビジネスに関する最も重要な取り組み

昨年の IT 投資は業務の最適化と変革を目的としていたのに対し、2025 年のテクノロジー支出は収益の増加と顧客の育成を目的とするより戦略的なビジネス上の取り組みに充てられています。2025 年の回答者の 38% がビジネス上の最重要課題として企業データの収益化を挙げ、顧客体験の向上 (35%) と新たなデジタル収益源の開拓 (32%) を上回りました。また、コンプライアンス要件への対応 (35%) も上位に挙げられました。一方、サイバーセキュリティ保護の強化と業務効率の向上は 2024 年にはビジネス上の重要な取り組みに挙げられましたが、今年はいずれも優先事項の上位 5 位に入りませんでした。

ビジネス上の取り組みに関する 2025 年の回答は、事業部門の回答者と IT リーダーの間で若干異なります。顧客体験の向上は共通の目標であり、事業部門の回答者の 30% が重要事項として挙げました。一方、事業部門では、サイバーセキュリティ保護の強化 (29%) と AI 主導のイノベーションとアプリケーション導入の加速 (28%) を重視する人の割合が、IT 部門の回答者よりも大幅に高くなりました。製造業の企業は全体に比べて企業データの収益化を重視する割合が高く (48%)、金融サービス企業は自動化

2025年のビジネス上の取り組み

1. 企業データの収益化 (38%)
2. コンプライアンス要件への対応 (35%)
3. 顧客体験の向上 (35%)

と統合による既存ビジネスプロセスの変革を特に重視しています (全体の 16% に対して 24%)。

AI/ML は、今年もテクノロジー投資において群を抜いて重視された分野となり、回答に占める割合は 2024 年 (44%) とほぼ同水準の 42% でした。回答者の 45% が、AI/ML 投資を戦略的に最も重要な投資に位置付けています。当然ながら、ハイテク業界の企業 (53%) と従業員数 1,000 ~ 5,000 人の大企業 (50%) は、AI/ML テクノロジーに支出する傾向が強くなっています。また、APAC の回答者も AI/ML 投資の優先度が特に高くなっています (46%)。

AI/ML 以外では、企業はセキュリティテクノロジーとリスク管理テクノロジー (34%) およびデータ/ビジネス分析 (31%) に IT 予算を配分していました。これら 2 つは戦略的に重要な分野と位置付けられていますが、約 10 ポイントの差があることを考えると、AI/ML に比べてその重要

2025年の技術上の取り組み

1. 機械学習/AI (42%)
2. セキュリティ/リスク管理 (34%)
3. データ/ビジネス分析 (31%)

度ははるかに低くなっています。サービス業界の企業はAI/MLを戦略的投資とみなす割合が高く(54%)、医療業界の企業はセキュリティテクノロジーとリスク管理テクノロジーを重視しています(48%)。医療業界の企業は、顧客体験関連技術に多額の投資を行っている割合(35%)も全体(4分の1)より高くなりました。

CEOはITリーダーにAI/MLイノベーションの推進を迫っていますが、来年に向けて他の目標にも目を向けています。顧客体験の向上は今年の実答者の23%が目標として挙げ、上位3位に入りました。ITとビジネスの連携強化(22%)と、デジタルビジネスおよびデジタルトランスフォーメーションの取り組みの主導(22%)がそれに続いています。ITとデータのセキュリティのアップグレードによる企業リスクの軽減は、優先事項として挙げたCEOの割合が昨年の27%から20%に低下しました。今年、AIプロジェクトを重視するCEOの割合がハイテク(36%)および教育(35%)業界で高くなった一方で、小売

および医療業界のCEOは他の業界と比べてITとデータセキュリティのアップグレードを重視する傾向が強まりました。

ITリーダーは、顧客体験への注目が高まる中で、幅広いテクノロジーの導入を推進しています。データと分析は顧客のニーズと行動の分析に活用されており、回答者の43%が優先事項として挙げました。小売(56%)およびハイテク(54%)業界では、その割合が特に高くなっています。AI/MLと自動化も重要なイネーブラーであり、回答者の41%がサポートとカスタマーサービスのやり取りを効率化するためにこれらのテクノロジーを活用しています。この傾向は、教育(56%)とハイテクおよび医療(ともに46%)の各業界でより顕著です。顧客とのやり取りを改善する手段としては、需要の変化に対する製品とサービスの適応を挙げる回答者の割合も高く、「2025年CIOの現状に関する調査」では39%に達しました。

AIの導入と実装

AI関連のテクノロジーとビジネスの取り組みに対する注目の高まりが、業務に影響を及ぼし始めています。今年、ITリーダーの3分の2以上(68%)が、AIがすでに業務を刷新しているか、刷新し始めていると回答しました。この割合は、ハイテク(77%)および金融サービス(75%)で特に高くなっています。

80%

のITリーダーは、
自社の技術スタックに
追加される可能性のある
AIの調査と評価を担うことに同意

現時点で、AIの導入は内部プロセスの自動化（69%）に直接的に関連する割合が高く、業務の合理化と効率化に関して大きな効果が望める金融サービス（79%）業界では特にその傾向が顕著です。顧客対応アプリケーションへのAIの導入も広がっており、僅差の62%でそれに続いています。医療（74%）、金融サービス（72%）、ハイテク（70%）の各業界の企業は、事業部門の回答者（69%）およびAPAC地域の企業（69%）とともに、AI導入を外的視点から見る割合が高くなりました。

CIOはAI導入の推進を主導しています。ITリーダーの80%と、事業部門の回答者の4分の3が、テクノロジースタックにAIを追加する可能性を調査および評価する任務をITリーダーが負っていると回答しました。一方で、ITリーダーの69%と事業部門の回答者の72%が、AI対応の製品やソリューションの導入推進において、事業部門が非常に積極的な役割を果たしていると回答しました。この割合は、金融サービス（80%）

とハイテク（79%）の企業で全体よりも若干高くなっています。

IT部門と事業部門の連携は常に課題となってきましたが、AIテクノロジーに関する投資と取り組みについてはそれほど問題にはなりません。ITリーダーの68%と事業部門の回答者の69%が、生成AIの導入に関するトレンドとユースケースについて、IT部門と事業部門で連携が取れていると回答しました。生成AIに関するIT部門と事業部門の連携はAPAC地域で特に良好で、ほぼ4分の3（74%）が肯定的に回答しました。

CIOが時間を費やしている仕事

戦略的な業務に重点が移ってきている中でも、CIOは多くの人々が従来型のメンテナンスやITの維持管理と考える業務に依然として膨大なエネルギーを費やしています。このような機能的業務が仕事の大きな部分を占めると回答した人の割合は80%で、小売業（88%）と製造業（86%）のITリーダーに関してはその割合がさらに高くなっています。セキュリティの管理、IT運用の改善、システムパフォーマンスの向上は、CIOが担う最も重要な機能的業務として、回答者の38%が挙げています。従業員数が1,000～5,000人の大企業では、セキュリティ管理をCIOの責任と回答した人の割合が高く、全体のほぼ半分（48%）に達しました。

コストコントロールと経費管理 (30%) は、IT 危機の管理および IT ベンダーとの交渉 (ともに 24%) と同様に、現在も CIO の任務として挙げられています。北米では、他の地域と比べて、IT 運用の改善とシステムパフォーマンスの向上に CIO が積極的に関与する割合が高くなりました。

CIO の課題として変革的な活動を挙げる人も多く、回答者の 77% に達しました。この分野では、CIO はインフラストラクチャとアプリケーションのモダナイゼーション戦略の策定 (32%)、IT の取り組みと主要なビジネス目標の調整 (31%)、ビジネスプロセスの再設計 (26%) に時間を費やしていました。また、変革の担い手として変化の取り組みをリードすることも、回答者の 4 分の 1 が重要な責任として挙げました。

今年は戦略的業務にかなりの時間が費やされました。これには、ビジネス革新の推進 (27%)、ビジネス戦略の策定と改善 (27%)、市場動向と顧客ニーズの調査による新たな市場機会の発掘 (22%) が含まれています。今後 3 年間の展望として、回答者はビジネス戦略に費やす時間の割合が現在 (66%) よりもさらに増える (71%) と予想しています。一方、戦略的業務に費やす時間が増える中でも、回答者の 27% は、セキュリティ管理の監督が、その他の機能的業務とともに今後も高い優先度を維持すると予想しています。

昨年と比較してCIOが費やす時間が 増えた業務

- セキュリティ管理
- IT運用の改善
- インフラストラクチャとアプリケーションのモダナイゼーション

費やす時間が減った業務

- ITベンダーとの交渉
- IT危機の管理
- コストコントロール

今後 1 年間で CIO がより多くの時間を費やすようになる業務としては、AI/ML 関連の取り組み (75%)、サイバーセキュリティ (65%)、製品開発 / 革新 (56%)、データ分析 (56%) の順に予想されました。医療業界の IT リーダーは 89% が AI/ML の取り組みにより深く関与すると予想する一方、製造業とハイテク業界の IT リーダーはサイバーセキュリティの問題により多くの時間を費やすと予想しています。金融サービス業界の CIO は、今後 1 年間で、製品開発 / 革新に関する業務の負担が大きくなると見込んでいます。一方で、CIO は、2025 年には多様性、公平性、包括性 (DEI) (24%)、マルチクラウド管理の業務 (20%)、クラウド移行 (19%) に費やす時間が減少すると予想しています。

幅広い戦略的業務と非戦略的業務に注目が集まる中、CIO が重要なビジネスリーダーであると

いう認識が広まっています。回答者の50%が、CIOはテクノロジーベンダーの選択に関する助言を提供してくれるだけでなく、ビジネスチャンスを積極的に発掘するうえで頼りになるエグゼクティブでもあると感じていました。CIOがコンサルタントの役割を果たすべきだと回答した人はおよそ5分の1(21%)にすぎず、13%はCIOをガバナンスの観点からテクノロジーの選択について助言するだけのリスク評価者と考えています。

全体として、事業部門はCIOとIT組織がビジネス主導型になりつつあると考えています。IT部門がビジネスへの関与を深めている例として、データ駆動型製品開発における事業部門のリーダーとの連携(19%)、顧客とのミーティングへの参加(18%)、一部の事業部門へのIT担当者の派遣(18%)が挙げられています。

CIOは、役割が複雑であることから、業務を遂行するために幅広い協力者に頼ることが増えています。今年の実答者の80%が、新しいテクノロジーやビジネスプロセスに対応するために、ベンダーやコンサルタントなどの信頼できるアドバイザーに頼っていました。

役割と報告体制

今年、58%がCIOは引き続きCEOに直属する体制を維持していると回答しましたが、この割合は2024年とあまり変わっていません。

EMEA地域のCIOは経営トップに直属している割合が40%と低く、コーポレートCIO(全体の16%に対して25%)およびCFO(全体の7%に対して11%)に直属している割合が高くなっていました。

CIO以外でも、テクノロジー関連の役職が管理職に加えられる流れが続いています。2025年の回答者の半数は現在、チーフテクノロジーオフィサーの役職に就いており、ハイテク企業(72%)や金融サービス企業(70%)ではその割合が特に高くなっています。現在、回答者の企業のうち、経営陣にチーフセキュリティオフィサーが含まれる割合はおよそ3分の1、チーフデータオフィサーが含まれる割合は22%となっています。今年の実答者の企業のうち、チーフAIオフィサーのポストを設置しているのはわずか14%で、この割合は企業規模による差がほとんどありません。APACの企業では、このポストを設置している割合が17%と最も高くなっています。

チーフテクノロジーオフィサー、チーフイノベーションオフィサー、チーフデータオフィサーは、チーフAIオフィサーと同様に、CEOに直属する割合が高くなっています。チーフセキュリティオフィサーとCISOは、直属先としてCEOとCIOの割合がほぼ半々です。これらの新しい役職の多くはCIOの直属となっていませんが、その技術予算は会社全体のIT予算に含まれます。唯一の明らかな例外がチーフAIオフィサーであり、このポストを設置している回答企業の半数で、

このポストに別個の予算の管理権限が割り当てられています。

予算と課題

過去数年と同様に、経済的な不確実性の中でも、IT 支出を削減する動きはほとんど見られません。「2025 年 CIO の現状に関する調査」では、IT 予算について 65% が増加、およそ 4 分の 1(24%) が横ばいで推移すると回答しています。2025 年の IT 支出の予測は、回答者の平均では 6.89% の増加でしたが、従業員数 1,000 ~ 5,000 人の大企業に限ると 7.46% の増加でした。IT 部門は、今年のテクノロジー支出総額のおよそ 40% を掌握しています。

2025 年に IT 支出を増やす予定と回答した人の

うち 31% が、その理由として AI/ML のプロジェクト、製品、サービスへの追加投資の必要性を挙げました。その割合は APAC 地域で特に高く、37% でした。また、予算増額の理由として、回答者の 27% はセキュリティ改善の必要性、

26% はインフラストラクチャのモダナイゼーションと移行を挙げました。

予算上の制約は大きな問題とはなっていませんが、人員とスキルの不足は引き続き課題となっています。今年の回答者の半数以上 (54%) が、

54%

の CIO が、人員やスキルの不足が革新的で戦略的な業務に費やす時間を奪う最大の課題であると回答

人員配置と人材に関する問題への対応に追われ、より戦略的な取り組みやイノベーションに費やす時間が奪われていると感じていました。CIO の課題としては、ビジネス環境の変化への対応 (43%) とセキュリティ上の脅威の軽減 (33%) が、より高い付加価値を生み出す活動よりも多く挙げられました。人員とスキルの不足を解決する必要性を挙げた回答者の割合は、政府 (69%) と金融サービスおよび医療 (ともに 61%) 業界で特に高くなりました。

人材面では、AI および機械学習関連の採用を増やす計画があると回答した人が 36% で、APAC 地域 (47%) とハイテク (49%) および製造 (46%) 業界ではその割合が全体よりもはるかに高くなっています。回答者は、今後 6 ~ 12 か月間で採用を強化する予定の分野として、サイバーセキュリティ (34%) およびビジネス /IT の自動化 (25%) も挙げました。

一方で、今年の回答者の多くが、適切な人材を見つけることが難しいだろうと予想していました。2025 年の調査で高いスキルを持つ候補者

CIOは、AIと機械学習に精通した人材を採用する計画を立てています。一方で、そのような人材は見つけるのが難しいことも予想しています。

を見つけるのが特に難しい分野として挙げられたのは、AI/ML (38%)、サイバーセキュリティ (33%)、データサイエンス / 分析 (21%) でした。一方で、DevOps/DevSecOps/ アジャイル手法 (14%)、クラウドサービス (13%)、エンタープライズソフトウェア (13%) などの従来型スキルを持つ IT 人材の確保については、今年はそれほど懸念されていませんでした。

CIOの役割に対する満足度

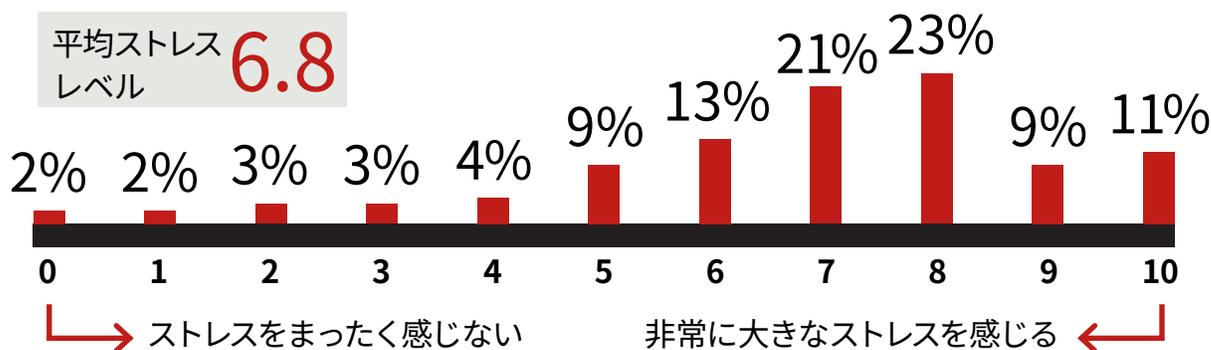
仕事の範囲が広がり、複雑さが増す中でも、CIOの自らの役割に対する満足度は非常に高くなっています。回答者の3分の1は仕事に対す

る全体的な満足度に最高の評価を与え、5分の1はワークライフバランスの達成度について非常に満足していました。

もちろん、役割の重要度が増すことにはデメリットも伴います。CIOの5分の1は全体的なストレスレベルがかなり高いと回答し、15%は深刻な燃え尽き症候群を感じていました。

今日のCIOは権限が拡大し続け、より戦略的な役割を担っていることに疑いの余地はありません。それによってCIOの地位は向上し、AI主導のビジネスを次の段階へと進めて会社に利益をもたらす準備が十分に整っています。

CIOのストレスレベルスケール



本調査について

今回で24回目となる毎年恒例のCIOの現状に関する調査は、CIOの役割に関する最新のパラメーターとその経時的な変化を把握することを目的として、オンラインで実施されました。回答者の適格要件は、自身を自社または社内部門のIT責任者であると見なしていることです。調査結果は、906人の適格なIT責任者と250人の事業部門担当者から得た回答に基づいています。この調査は全世界で実施され、回答の地域別内訳は北米が41%、EMEAが15%、APACが37%でした。

地域別の注目ポイント

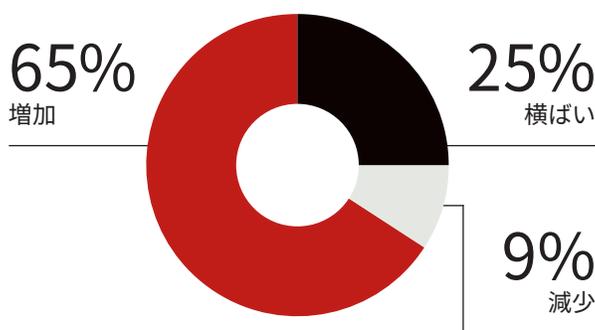
特定の地域をターゲットにしたマーケティングを実施しているのであれば、北米、欧州、アジア太平洋の各地域の重要な調査結果を確認してください。地域別の調査結果について、詳しくは弊社へお問い合わせください。

北米

IT予算

北米において技術予算を増やす理由の第1位はセキュリティの向上。

2025年の技術予算の予測



CIOの役割

- 全体的なストレスレベルを0～10で表すと、北米のCIOの平均は6.8となっています。
- **85%**のCIOが、デジタルトランスフォーメーションの取り組みを主導していると回答しました。
- 北米のCIOの**47%**が、自らをビジネスリーダーであると考えています。ビジネスリーダーとは、ビジネスニーズやビジネスチャンス積極的に特定し、テクノロジーやプロバイダーの選択に関する助言を行う人物を指します。

IT投資を推進するビジネス上の取り組み

- 企業データの収益化
- コンプライアンス要件への対応
- 新たなデジタル収益源の開拓
- IT投資を推進する技術上の取り組み
- 機械学習/人工知能
- セキュリティ/リスク管理
- データ/ビジネス分析

AIのインパクト

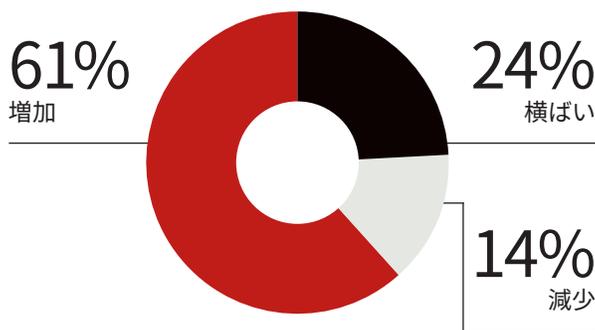
- **82%**は、自社の技術スタックに追加される可能性のあるAIの調査と評価を担うことに同意。
- **74%**は、AIアプリケーションに関して事業部門とより緊密に連携していると回答。
- **64%**は、生成AIの導入と活用に関してIT部門と事業部門が連携していると回答。

EMEA

IT予算

EMEAにおいて技術予算を増やす理由の第1位はAIのプロジェクトまたは製品への追加投資。

2025年の技術予算の予測



CIOの役割

- 全体的なストレスレベルを0～10で表すと、EMEAのCIOの平均は6.8となっています。
- EMEAのCIOの**39%**が、自らをビジネスリーダーであると考えています。ビジネスリーダーとは、ビジネスニーズやビジネスチャンス積極的に特定し、テクノロジーやプロバイダーの選択に関する助言を行う人物を指します。
- 一方、**27%**は自らをコンサルタントであると考えています。これは、リクエストに応じて、ビジネスニーズ、技術の選択、プロバイダーを評価し助言する人物を指します。

IT投資を推進するビジネス上の取り組み

- 企業データの収益化
- コンプライアンス要件への対応
- 顧客体験の向上
- IT投資を推進する技術上の取り組み
- 機械学習/人工知能
- ビジネスプロセス自動化/IT自動化
- データ/ビジネス分析

AIのインパクト

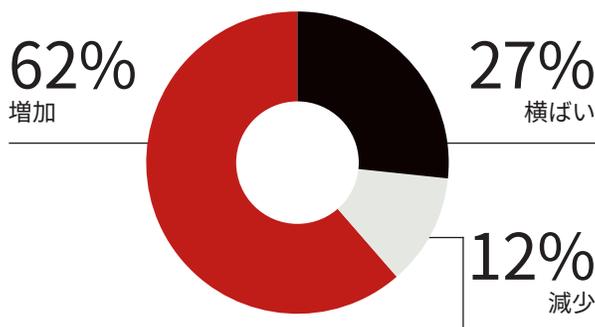
- **76%**は、自社の技術スタックに追加される可能性のあるAIの調査と評価を担うことに同意。
- **76%**は、AIアプリケーションに関して事業部門とより緊密に連携していると回答。
- **64%**は、生成AIの導入と活用に関してIT部門と事業部門が連携していると回答。

APAC

IT予算

EMEAにおいて技術予算を増やす理由の第1位はAIのプロジェクトまたは製品への追加投資。

2025年の技術予算の予測



CIOの役割

- 全体的なストレスレベルを0～10で表すと、APACのCIOの平均は6.8となっています。
- **85%**のCIOが、デジタルトランスフォーメーションの取り組みを主導していると回答しました。
- APACのCIOの**60%**が、自らをビジネスリーダーであると考えています。ビジネスリーダーとは、ビジネスニーズやビジネスチャンス積極的に特定し、テクノロジーやプロバイダーの選択に関する助言を行う人物を指します。

IT投資を推進するビジネス上の取り組み

- 企業データの収益化
- 顧客体験の向上
- 業務効率の向上
- IT投資を推進する技術上の取り組み
- 機械学習/人工知能
- データ/ビジネス分析
- セキュリティ/リスク管理

AIのインパクト

- **80%**は、自社の技術スタックに追加される可能性のあるAIの調査と評価を担うことに同意。
- **76%**は、AIアプリケーションに関して事業部門とより緊密に連携していると回答。
- **74%**は、生成AIの導入と活用に関してIT部門と事業部門が連携していると回答。
- APACのCIOの**47%**は、今年中にAI/ML分野の人材の採用を予定していると回答。
- **46%**は、AI/ML投資を優先していると回答。

市場の調査

調査は、マーケティング担当者が既存顧客と潜在顧客についての理解を深め、質の高い関係を構築するために**極めて有益**な手段です。Foundry は、テクノロジーバイヤーとセラーの懸け橋を築く方法の1つとして、調査を重視しています。弊社は世界中の極めて重要なテクノロジーバイヤーやインフルエンサーと直接的な関係があるため、あらゆる顧客マーケティングにおいて貴重な成果を生み出すことができます。弊社は調査を通じてアナリティクス、クラウド、IoT、セキュリティなどの特定のテクノロジーに関するお客様の考え方や課題を探り、IT 購買プロセスにおける役割の変化を調べることで、機会を見出すために必要な情報を技術系マーケティング担当者に提供しています。

どのような調査を利用できるのかについては、foundryco.com/tools-for-marketers でご確認ください。こちらに掲載されている調査のいずれかについて、詳細な結果をお求めの場合は、Foundry の営業責任者にご連絡いただくか、もしくは foundryco.com/contact-us からお問い合わせください。

購買プロセス

Foundry は毎年、エンタープライズの IT 購買プロセスを詳しく調査し、誰が関与しているのか、誰が意思決定に影響を与えているのか、購買担当者は購買プロセス全体を通じてどのようなソースからテクノロジーに関する最新情報を得ているのか、購買担当者は提携しているベンダーとどのように関わることを望んでいるのかを明らかにしています。詳しくは、foundryco.com/customerjourney をご覧ください。

購買プロセスに関する調査

- テクノロジーに関する意思決定者の役割と影響力
- カスタマーエンゲージメント

テクノロジーに関する知見

Foundry は毎年、お客様が重視しているテクノロジーについて調査し、ビジネス上の課題、推進力、エンタープライズ内での利用状況を把握しています。こうした調査は、顧客が何を重視しているか、市場がどこに向かっているかを IT マーケティング担当者が理解できるようにするために考案されています。

役割と優先事項に関する調査

- CIOを対象としたテクノロジーに関する調査：
テクノロジーの優先事項
- CIOの現状

特定のテクノロジーに関する調査

- AIの優先事項
- クラウドコンピューティング
- セキュリティの優先事項
- パートナーマーケティング

Foundryの最新情報

ニュースレター:メディアやマーケティングのトレンド、Foundry 独自の調査結果、製品やイベントの情報をニュースレターで配信しています。ご登録は [FoundryCo.com/newsletter](https://www.foundryco.com/newsletter) で受け付けております。

ソーシャルサイトでのアナウンスは [LinkedIn](#) をご参照ください。

Website (グローバルサイト) : <https://www.foundryco.com>

Website (日本サイト) : <https://www.foundryco.com/jp>

Foundry (ファウンドリー) のご案内

弊社Foundryのビジョンは、テクノロジーを正しく活用することで世界をより良い場所にすることです。なぜなら、テクノロジーが適切に使われることは、世の中の善のために良い力となると信じているからです。

Foundry は、信頼されるVoiceとして、知識やエンゲージメント、そしてテクノロジーやセキュリティに関する意思決定をする人たちのコミュニティとの関係を深める、品質の高いコンテンツを提供しています。こうしたコンテンツを配信する弊社メディアブランドであるCIO®, Computerworld®, CSO®, InfoWorld®, Macworld®, NetworkWorld®, PCWorld® そしてTech Hiveは、最も影響力のあるテックバイヤーを対象に、進化するテクノロジー業界の最新情報を提供しています。

こうした信頼されたブランドと、弊社のグローバル規模のデータインテリジェンスプラットフォームを使い、市場の動向から購買意欲を特定、活性化することでお客様の成功をサポート致します。また、マーケティングサービスとしては、ビデオ、モバイル、ソーシャル、デジタルなど、様々なメディアでマーケティングに特化したコンテンツも作成しています。

詳細は[FoundryCo.com](https://www.foundryco.com)にてご確認下さい。